

★第18回非同盟諸国首脳会議＝ハディディAAPSO議長のスピーチ

アジア・アフリカ人民連帯機構（AAPSO）のヘルミ・エル・ハディディ議長は10月26日、バクーでの第18回非同盟首脳会議で次のように発言しました。

初めに、バクーでの第18回非同盟首脳会議にご招待をいただいたいことに、アゼルバイジャン政府と外務省に深い感謝を申し上げます。

非同盟運動は、第三世界におけるもっとも卓越した存在であります。発展途上国を代表しその利益と願望を実現するために献身しています。120の加盟国の総人口は世界の半分以上をしめています。AAPSOは非同盟運動の創立当初からオブザーバー資格をもつ唯一の国際非政府組織として活動してきました。

非同盟運動は1961年9月にベオグラードで開かれた第一回非同盟首脳会議で生まれました。新しく独立した途上国を代表して、その活動と政策は非植民地化のプロセスと直接結びつき、反帝国主義のスローガンと植民地主義、アパルトヘイト、人種主義とシオニズムの排撃が特徴でした。

インドネシアのスカルノ大統領、エジプトのナセル大統領、ユーゴのティト大統領、インドのネルー首相が1955年にバンドン会議を共同開催し、世界の2つの大国同盟に加わりたくないと思っているすべての政府を招待しました。

その冷戦は終わりました。そこで冷戦が終わったのだから非同盟運動も意義を失ったという議論がされています。確かに冷戦の終結は非同盟運動に大きな打撃をあたえました。しかし非同盟運動の主要な問題、たとえば植民地主義やアパルトヘイトはひとつまたひとつと消滅しました。

21世紀における非同盟運動の意義は、ベネズエラ・ボリバル共和国主催による第17回非同盟首脳会議の最終コミュニケに端的にまとめられています。そこには次のような目標がかかげられています。

- ◆非同盟運動の強化と再活性化
- ◆国際の平和と安全保障の強化
- ◆自決権。特記されている唯一のケースは、パレスチナの西岸と東エルサレム、シリアのゴラン高原のイスラエルによる占領の終結の要求です。

◆核軍縮と中東の非核化

◆人権と国連憲章の諸原則の守護と促進

◆テロリズム、特に I S やボコハラム、アルサバブなどの非難、文化遺産と宗教施設の破壊の非難

諸国家間の平和と協力、友好の勢力としての非同盟運動の意義は、2018年4月の非同盟諸国閣僚会議のなかで明らかにされました。焦点となったテーマは「持続的発展のための国際平和と安全保障の促進」でした。

今年は、私たちは、多国間主義の重要性を確認するとともに、持続的発展のための2030年アジェンダの完全実施を誓約する必要があります。

非同盟運動のシンボルは、排除ではなく平和をはぐくむ国際協力の価値です。他国と協力しその独立を尊重することがぜひとも必要です。

(以上)